

竹島を救え！三河湾を救え！



企画調整課 ☎66♦1162

アオサ大作戦



海岸ではこんなことが…

生活排水が多く流れ込み、潮の流れがあまりない湾内では、海水の富栄養化が進み、アオサという海藻が大量発生することがあります。このアオサが大量に発生すると、海の中の魚や貝が窒息して死んでしまったり、腐って悪臭を放つなど、大きな問題となります。

このことは、蒲郡でも例外ではありません。特に、蒲郡のシンボルである竹島海岸では、毎年夏になると大量のアオサが砂浜を覆いつくし、景観を害するとともに海岸の利用を妨げるなど、深刻な状況が続いています。

また、アオサ問題のほかにも、赤潮・苦潮の発生や貝殻の大量打ち寄せなど、私たちの竹島海岸は数多くの問題を抱えています。



みんなで立ち上げろっ

こうした状況の中、私たちの海をなんとか守っていこうと、干潟・藻類の専門家や海の浄化に取り組んでいる会社、漁業界・観光業界の方などがいっしょになって「三河湾環境チャレンジ実行委員会」を立ち上げました。ここでは、ア



研究の成果を紹介します

アオサの発生原因から、その回収方法、その活用まで、アオサの循環型利用実用化へ向けて、さまざまな角度からアオサ問題の解決方法を研究しました。

三河湾のアオサ

一口に「アオサ」と言っても、何種類もの種類があるのを知っていましたが。そこで、三河湾ではどんなアオサが発生するかを知るため、蒲郡だけでなく、三河湾内7カ所の海岸で定期的にあおさを回収し、DNA分析を行いました。その結果、3月ごろにはアナアオサ、ウスバアオサ、6月ごろにはアナアオサが、11月ごろにはミナミアオサが多く発生していました。同じ場所でも、季節によって種類の違うアオサが発生しているのが分かりました。



アオサ採集風景

回収実験機「あおさ君」

現在、海岸に打ち上げられたアオサは、主に人海戦術で回収しています。しかし、この方法では、干潮時にしか作業ができませんし、多くの人手や費用が必要となってしまいます。そこで、これに替わる効率的な回収方法を研究してきました。

その結果、キャタピラ式で海底を走ることができる回収装置（愛称・あおさ君）を開発し、海中に漂うアオサをホースで吸引して、陸上に送るシステムを作りました。回収実験では、10分間で300kgのアオサを回収できるなど、上々の結果が得られました。



実験中の「あおさ君」